

第15回南野ゼミ東京研修旅行：京・江戸・博多、そしてパリ：35

南野，森
九州大学大学院法学研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7431377>

出版情報：福音宣教. 79 (2), pp.12-13, 2025-02-01. Oriens Institute for Religious
バージョン：
権利関係：





35 第15回南野ゼミ東京研修旅行

12月16日(月)から18日(水)まで、学生17名を引率し東京へ行ってきた。九
大法学部南野ゼミの名物企画「東京研修旅行」については、本連載で2度書いた
ことがある(第13回「いも九、いざ江戸へ」、第24回「メリノールの!」)。二〇〇八年か
らコロナ禍の2年を除き毎年続けており、今回で15回目になった。

毎回、最高裁、国会、中央官庁、マスコミなどを訪問してきたが、今回は、臨
時国会召集が11月28日であったから、研修旅行の時点での国会の状況が直前まで
わからず、国会関係の予定を立てられないまま見切り発車で出発することになつ
た。事前に約束が取れていたのは最高裁と法務省とNHKのみで、あとは国会次
第。我々の予定は、月曜午後、火曜午後、水曜午前が空白になっていた。

ところが出発直前の金曜になって、月曜午後に参議院予算委員会が開催される
ことが決まったとの報道があつた。調べると、我々の到着予定時刻はちょうど共
産党議員の質問時間に当たっていたので、同党の小池晃参議院議員に急遽傍聴の
手配をお願いした。それで月曜は、羽田空港到着後、まずNHKで、昨年大ヒッ
トした連続テレビ小説「虎に翼」の実質的原作者でもある清永聡解説委員のお話
を伺ったのち、スタジオ見学や職員食堂での昼食を経て、参議院へ。石破首相と
山本太郎議員の質疑も目の前で傍聴でき、学生たちは喜んでいった。

火曜の午前は法務省。卒業生で、もともと裁判官でありながらここ数年は法務
省で官僚として働いているMF氏が我々を迎えてくれた。司法試験を目指してい
た学生時代にはこんな仕事をするようになるとは想像すらしなかつたという同氏

の話に、学生は強い印象を受けたようであつた。

午後の訪問先が決まっておらず、さてどうしようかと悩んでいると、参議院法
制局に勤務するやはり卒業生のMM氏が、予定がないならうちへどうぞと誘つて
くれた。渡りに船とはこのことで、早速霞ヶ関から永田町へ。知名度は高くない
組織であるが、参議院議員の立法活動を支える法律の専門家集団で、調査・検
討・立案など、その業務はどこか研究者のような仕事でもある。

参議院法制局で説明を聞いているとき、立憲民主党の西村智奈美衆議院議員か
ら、明日法務委員会が開催されることになったので傍聴希望ならどうぞ、と連絡
が。驚き喜び、二つ返事でお願ひした。これで空白の時間帯がすべて埋まる!

というわけで水曜の午前は衆議院へ。質問者は立民の鎌田さゆり議員。昨日法
務省で聞いたばかりの区分所有法についての質疑をされたので、偶然に驚いた。
次の質問者は同党の有田芳生議員。旧統一教会について、もちろん私にはとて
も興味深かった。そして議事堂見学の後は、最高裁へ。最高裁では、行政法学者
(元東大教授)でもある宇賀克也裁判官に面談していただいた。多くの学生にとり
最も心に残る訪問先となったはずであるが、これについてはまたいつか、最高裁
について書かせていただくときに、合わせて触れられればと思う。

17人の若者を引率してあちこち歩き回るのは心身ともに大変疲れるが、ま
さに心地よい疲労とはこのことで、それぞれの学生が自身の今後にこの経験
を有意義に活かしてくれれば、私はそれで大満足である



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学
卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。
AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』(PHP文庫)ほか著書多数。



月曜日の夕方、参議院予算委員会の
傍聴後に議員会館をウロウロしてい
たところ、偶然、社民党の福島瑞穂
参議院議員に会い、事務所で記念撮
影をしていただいた。